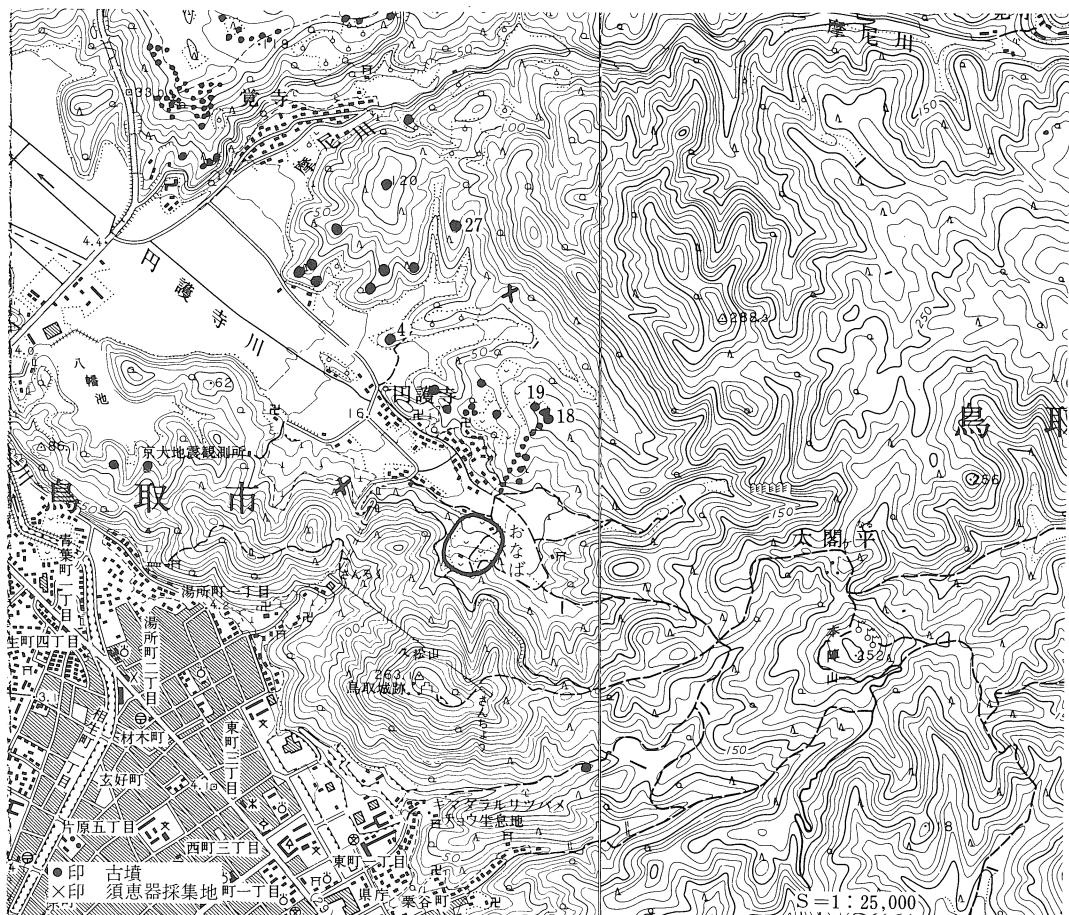


第7章 まとめ

円護寺遺跡群の調査を通じて、古墳時代から近世までの様々な遺構を検出した。調査員の力量不足と時間的な問題から、十分な検討はできていないが、調査によって判明した事実や問題点を指摘しておく。

古墳は、今回の調査で新たに発見したものを加えて10基を調査した。しかし、完全な形で残っている古墳は少く、後世にかなり破壊されていた。古墳群の特徴は、第1にいすれも6世紀から7世紀初頭につくられた古墳時代後期の群集墳であること、第2に、27号墳を除きいすれも箱式石棺を埋葬施設としていることである。27号墳をのぞくそれぞれの古墳を築造年代順に並べると、19→29→22・23・24・25→28→21・19→4となり、尾根の高所から、尾根づたいに古墳が順につくられていることがわかる。また21号墳と4号墳は谷をへだてているが、一連の古墳群と考えられる。円護寺地区は、南北を山に囲まれた小さな谷であるため、円護寺古墳群に葬られた人々は、この谷に居住していた人々と思われる。



第72図 周辺古墳分布図

一つの尾根に連なる一連の古墳群を調査したことによって、古墳時代後期の村の様子をさぐる良い資料が得られたわけである。

図72に示す通り、今回調査された19号墳の南に前方後円墳である18号墳があり、北西に続く尾根に19～29号墳の古墳群がある。また、同じく18号墳を起点として、南西に続く円護寺5～17号墳の13基の古墳がある。5～17号墳の埋葬施設は、現在一部露出している石棺等から考えて、いずれも箱式石棺と推定され、今回調査した27号墳を除く他の古墳とその配置が似かよっている。

それに対し、27号墳は、埋葬施設に横穴式石室を持ち、他の古墳と全く異っている。27号墳のある北谷山には、円護寺側に他に3基（円護寺1～3号墳）、覚寺側に6基（覚寺1～6号墳）の古墳が遺跡地図に掲載されている。それらの古墳は未発掘であるため、断定はできないが群集墳の一つとして27号墳を考えるならば、それらの古墳は27号墳と同じような古墳であろうと推測される。また古墳の配置も、追葬が可能な横穴式石室の埋葬施設を想定したほうがよいと思われる。

また、遺跡地図に掲載されていないが、地元の人の話によれば、円護寺の谷の南側、久松山側の字おなばに、かつて古墳があり、戦前戦後の開墾によってかなり破壊されたということである。現在その遺物の一部が鳥取市立城北小学校に保管されているが、6世紀後半の須恵器が完形で10点以上あり、地元の人の話と合わせて、字おなばに古墳があったことはまちがいなかろう。しかし、埋葬施設等は不明である。さらに、調査員が周辺の山を踏査した際、円護寺トンネルのある「サイの峠」の北側の公園墓地に向かう道路の道路べりで須恵器片を探集したし、調査中、字古寺で須恵器片を探集した。いずれも現在の遺跡分布調査で遺跡として確認されていないが、今後さらに多くの古墳が発見される可能性はある。

以上をまとめると、円護寺の谷の古墳のグループは大きく3つに分けられる。第1のグループは、前方後円墳円護寺18号墳を中心とする箱式石棺を埋葬施設とするグループで、それらは、方向によって南西グループと北西グループに2つに分けられる。第2のグループは字おなばの古墳であり、破壊されているため詳細は不明である。第1のグループの南西4号墳が谷をへだても続くように、このグループも延長かもしれない。第3のグループは、北谷山の古墳群で円護寺27号墳しか調査されていないが、古墳の配置は第1のグループと全く異っており、別グループと考えられる。以上の古墳は、出土遺物から考えて、6世紀初頭から7世紀初頭にかけて當まれたものである。埋葬施設の相違をそのまま村の相違と考えれば、一つの村の範囲は現在の村と同じくらいと考えられるだろう。

北谷山の北には、開地谷古墳群、桃栗谷横穴群、湯山古墳群、さらに浜坂横穴群等の古墳の密集地区があり、それらの古墳群も同様にいくつかのグループに分割され、そのグル

ブごとに箱式石棺、横穴式石室・横穴といった埋葬施設をもっていたのだろう。

次に、円護寺古墳群に葬られた勢力について考える。鳥取砂丘周辺の古墳群を築造した勢力は「海部」であると考えられており、円護寺古墳群も、その系列の中でとらえられるべきであろう。円護寺は現在千代川から3kmほど内陸に入るが、古代の千代川は蛇行しており、現孤川と考えられ、また円護寺の西には八幡池という大きな池もあり、日本海一千代川とそう離れているわけではない。また、興味深いのは、「産見の長者」伝説である。これは、『円護寺縁起』等にみられる伝説であるが、その内容の概略は以下の通りである。昔（一説に大同年中）、湖山村（一説に加路村）に産見の長者と呼ばれる者があり、富貴を極めたが、子に恵まれなかった。そのため、長者は円護寺に参詣して願をかけたが、そのおかげで女子を得た。しかし、その女子は8才の夏忽然と姿を消し、長者は方々を捜しまわったが喜見山（摩尼山）に登った時、巽の方向を見ると海上から、女子が龍女となって現われた。龍女は、喜見山の西南にある湖（八幡池か？）に入り、大龍となり、三日三夜波上に遊行したのち、男子の姿となり梵天帝釈の身を現して、立岩山の波上に立った。そのため、長者は畏敬の念にうたれ、その旧跡を喜見山摩尼寺として深く信仰した。この伝説を考えるに、湖山村（加路村〔賀露〕）は古代においては、水上交通の拠点であるし、また、龍、池といった水にかかるものが多いことに気づく。この伝説が何を意味しているかを解くのは難しいが、かなり古い時期から、千代川右岸の摩尼山一円護寺と左岸の賀露一湖山の結びつきがあったことを思わせる。湖山付近は、5世紀末から6世紀において、前方後円墳がかなり築造されており、古墳時代後期の因幡の1つの中心であること等も何か関連があるのかもしれない。

次に砦跡についてである。江戸時代の史料である『旧墨さく覧』に、これらの砦跡はくわしいが、その中で円護寺の運営として、今回調査した付近では、「上ノ平ノ要害」「庵ノ上ノ要害」がのっている。絵図・地名から判断して「庵ノ上ノ要害」が今回調査した「庵ノ城砦跡」であることは間違いない。「庵ノ上の城」が「庵ノ城」に転化したものと思われる。一方、古屋敷砦跡は「上ノ平ノ要害」の可能性もあるが、字名が異っていること、字上ノ平には、前方後円墳の墳丘を利用して使った土壘跡があり、地図の大きさから考えると、その土壘が「上ノ平ノ要害」とえたほうがよいだろう。そして、古屋敷砦跡は『旧墨さく覧』が書き落しているものと思われる。また、中尾の土壘のように単に土壘のみの部分も『旧墨さく覧』にはないが、実際には、ほとんどの尾根に、そのような土壘は築かれているようである。土壘の方向が千代川方向を向いていることは、鳥取城へ支援の物資を運ぼうとする毛利の動きを阻止するためと思われ、鳥取城攻めの際に作られた砦跡としてまちがいないと思われる。

『陰徳太平記』によれば、このような砦について「それぞれの陣ごとに、まず芝土手を

高く築き、柵を二重三重に結い、空堀を幅四・五間（約8メートル）ほどに掘り、塀を堅固に建てて、矢狭間を数多く開け夜ともなれば、1間（約1.8m）2間ごとに提燈をかかげて警戒した」（現代語訳『陰徳太平記』教育社）とあり、柵、空堀、塀があると記しているが、今回の調査では、それらの跡と思われるものは発見しなかった。また、1980年鳥取市教育委員会によって調査された、同じく秀吉の鳥取城攻めの際に作られたヒル山砦跡では、櫓台状遺構、ピット状遺構、石積遺構が検出されているが、今回の調査では検出されなかった。

テラス状の地については、中世以前の遺構を期待して調査したが、中世以前のものはなく、いずれも近世以降のものであった。『円護寺縁起』に見えるように、寺としての円護寺は古い由緒をもっており、摩尼寺等との関連もあり、古代末から密教的なものの存在が想像されるが、今回の調査では発見されなかった。しかし、中世のものとして注目されるのは、庵ノ城で出土した12枚の銅錢である。何らかの祭祀を予想させるが、その祭祀の解明は今後の課題の一つである。近世においては、妙見信仰の堂の跡・参道を検出した。妙見信仰と円護寺の関連といった問題も残されている。

最後に興味深い事実をあげておく。円護寺は古くは円江寺と書かれ、現在でも「えんごじ」ではなく「えんごうじ」と発音されている。そして同じ発音の延興寺という村が岩美郡岩美町にある。『因幡志』によれば、延興寺村の氏神は鐘撞大明神となっている。円護寺の古寺の谷の奥に「鐘撞」という地名がのこり、かつて鐘撞堂があったといわれる。覚寺にも「鐘撞」という字名がある。この二つの「えんごうじ」の関連は興味深いが、今はそれ以上にはわからない。

以上、調査による成果・課題を述べたが、円護寺地区は、『縁起』に見えるように、摩尼山との関連が強く、この地域の歴史の解明は摩尼山を考えることが不可欠である。この報告書がそのような研究の一助となれば幸いである。

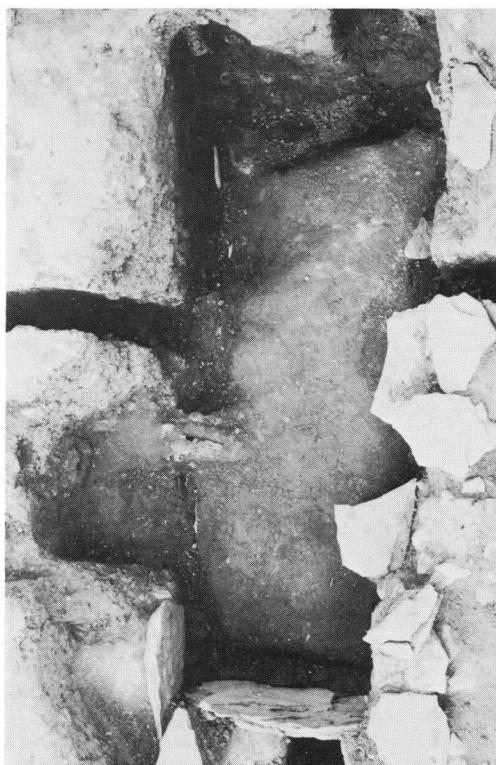
図版1 円護寺遺跡群全景



円護寺遺跡群全景（南より）



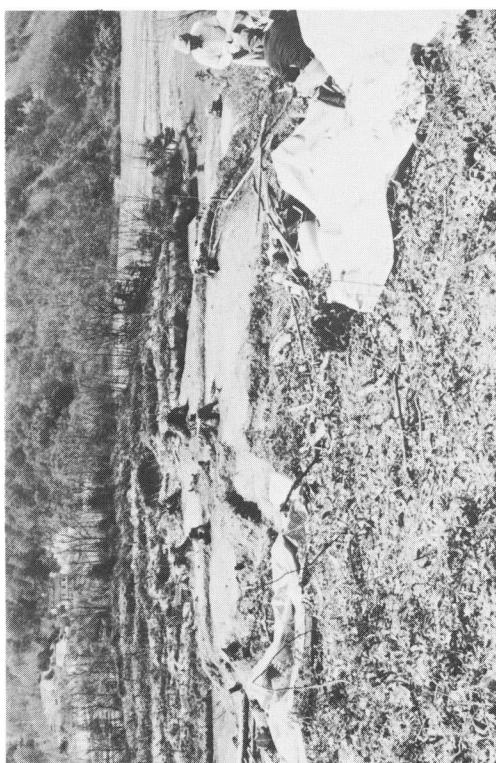
円護寺遺跡群全景（北より）



石棺



遺物出土状況 (P01 と 鉄器)



円護寺 4 号墳 現況 (東より)



円護寺 4 号墳 全景 (東より)

図版3 円護寺4号墳



円護寺4号墳
墓塚（北より）



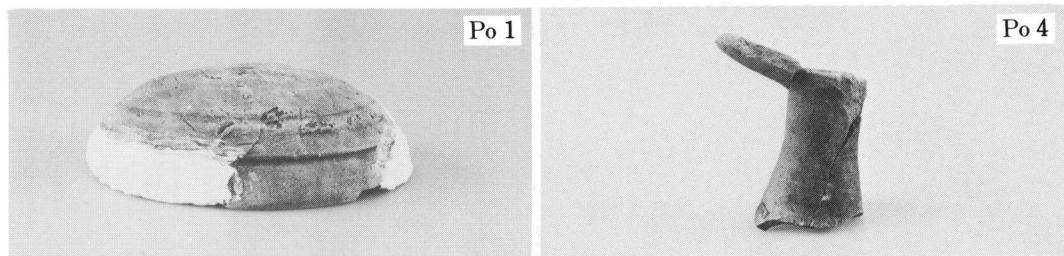
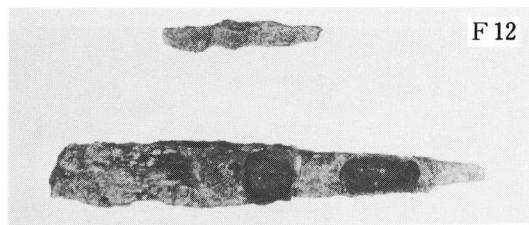
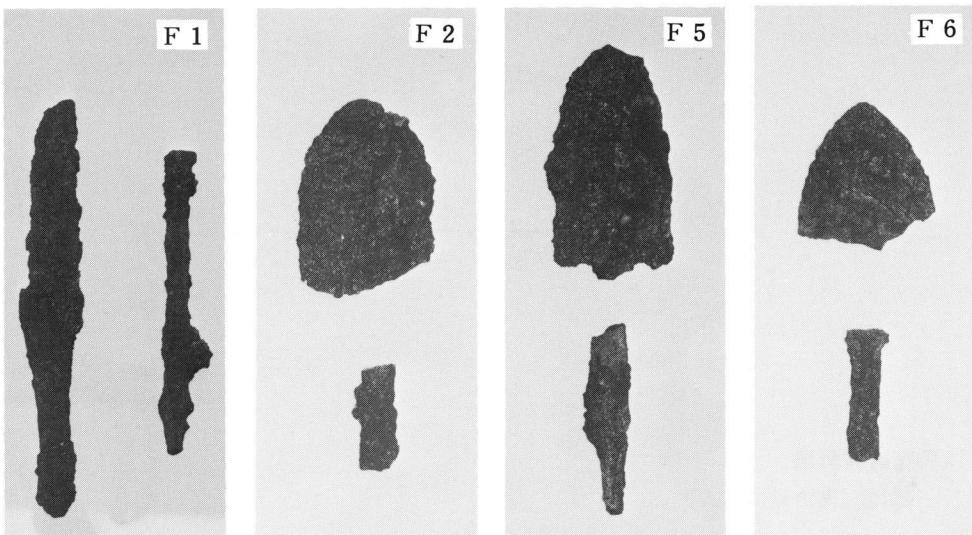
円護寺4号墳
墓塚（東より）



円護寺4号墳
調査終了後全景
(東より)



円護寺4号墳
出土鉄器
(F 1~14)

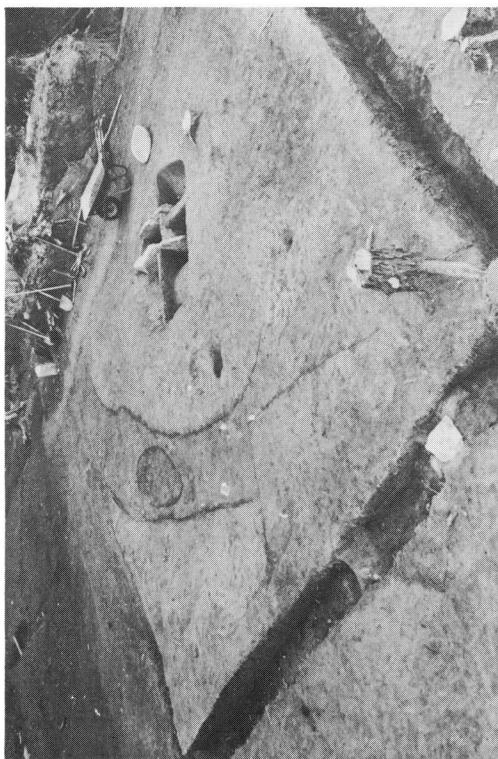




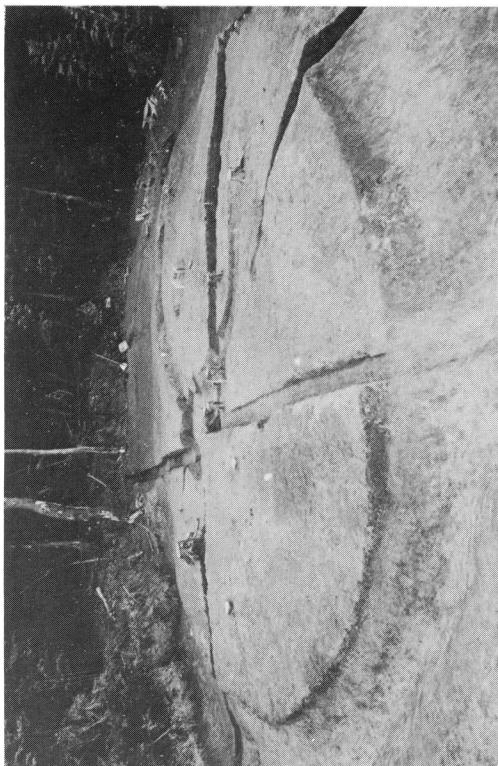
移転石棺正面（西方より）



移転石棺側面（南方より）



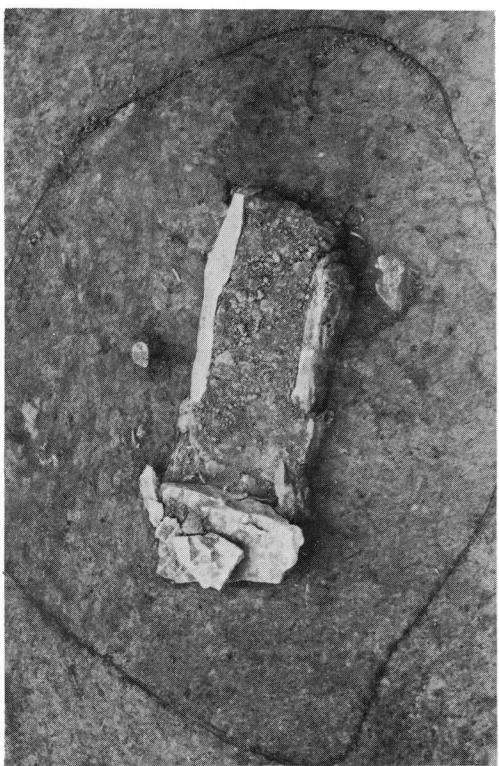
第1・第2埋葬施設（北方より）



19号墳全景（北方より）



19号墳第1埋葬施設（北方より）

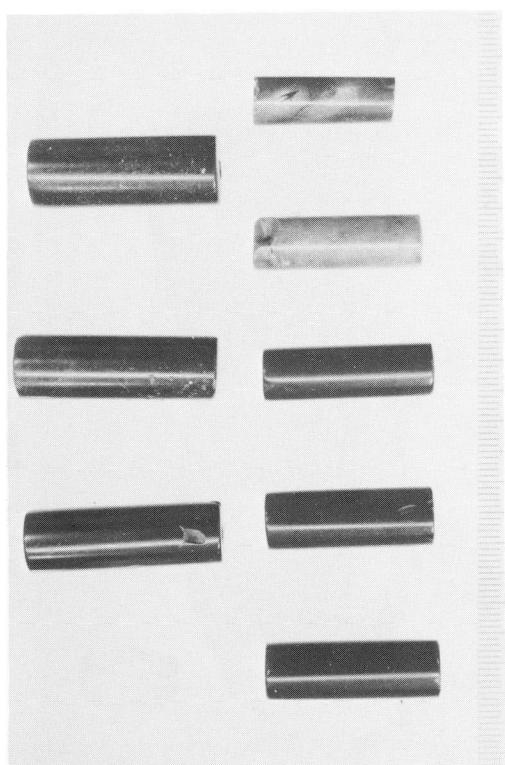


19号墳第2埋葬施設（西方より）

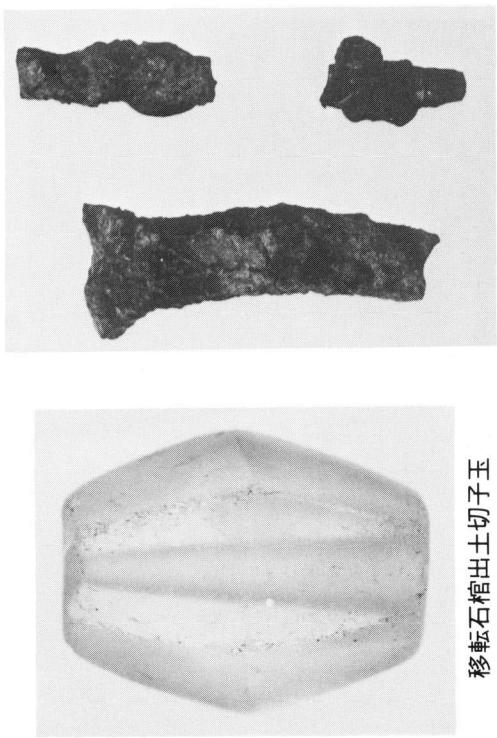
石斧



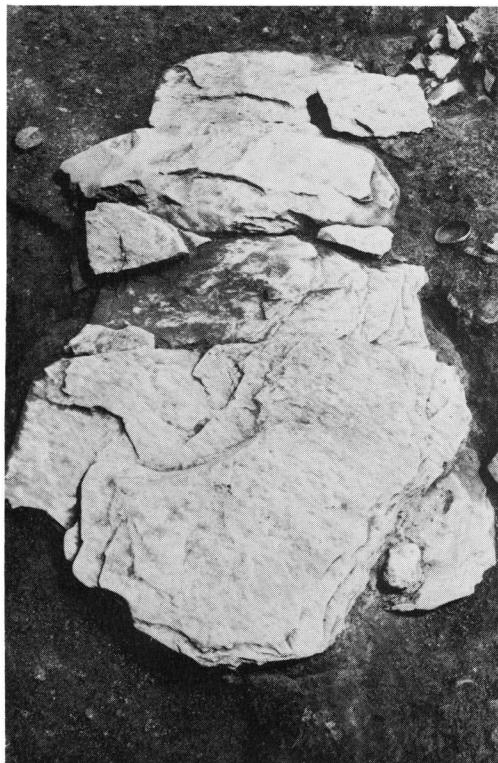
19号墳第2埋葬施設(西方より)



移転石棺出土の管玉



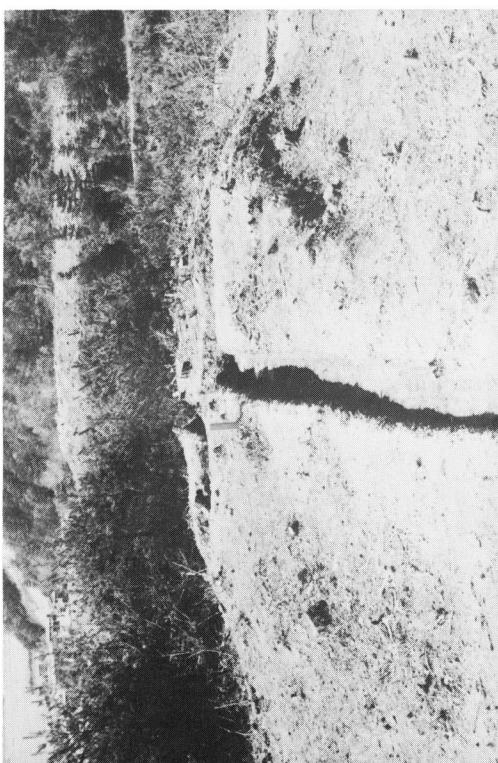
移転石棺出土切子玉



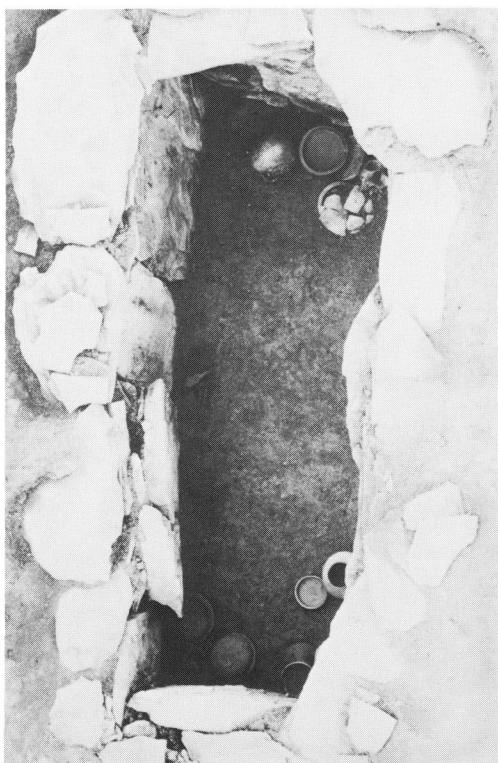
埋葬施設蓋石



石棺内 鐵鎌出土状況



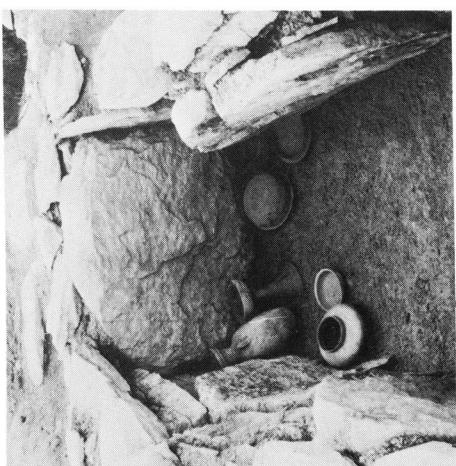
円護寺21号墳現況（北東より）



石棺内、石棺、遺物出土状況



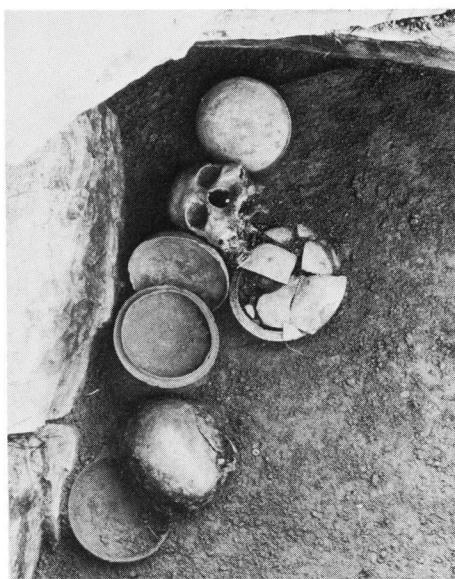
頭蓋骨 (B-2) 出土狀況



石棺內 遺物出土狀況
(北側)



頭蓋骨 (B-1) 出土狀況



石棺內 遺物出土狀況
(南側)



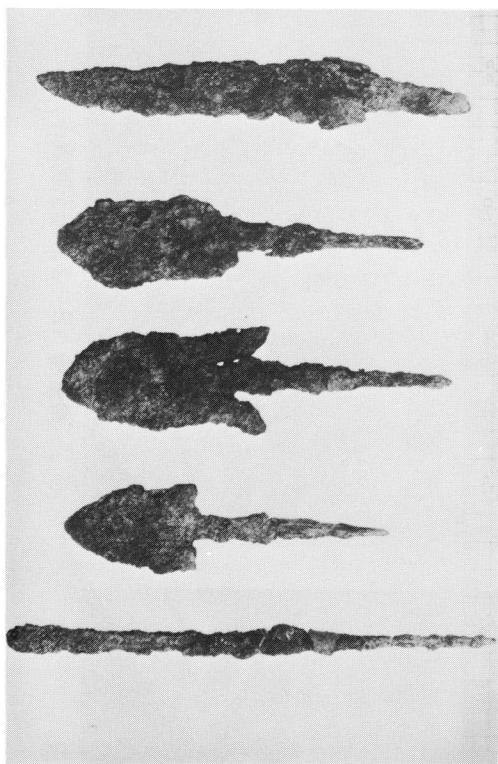
石棺內 遺物出土狀況
(南側)



石棺內 遺物出土狀況 (北側)



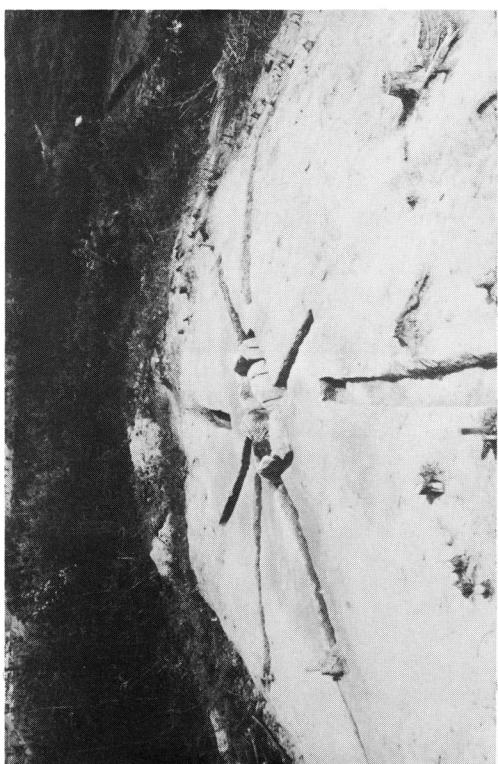
石棺（南より）



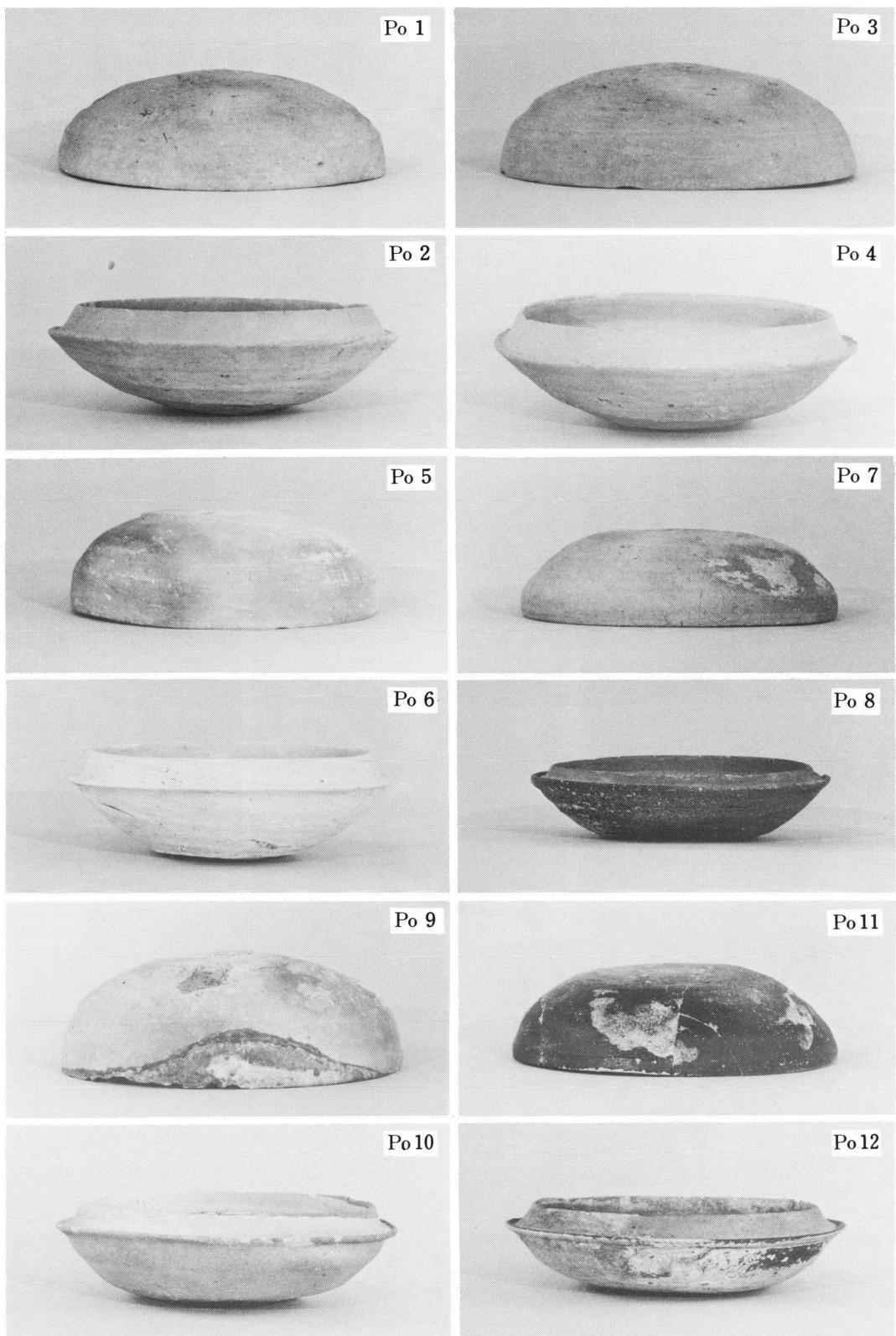
石棺内出土鐵器（F1～5）

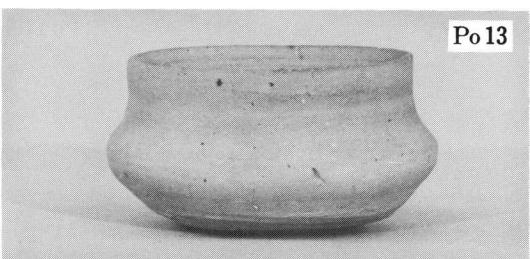
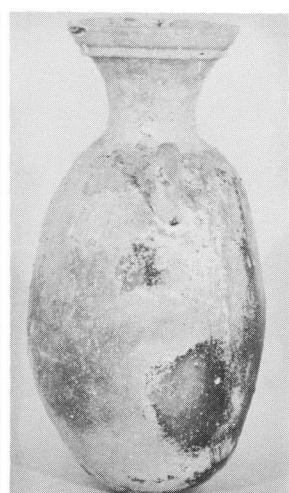
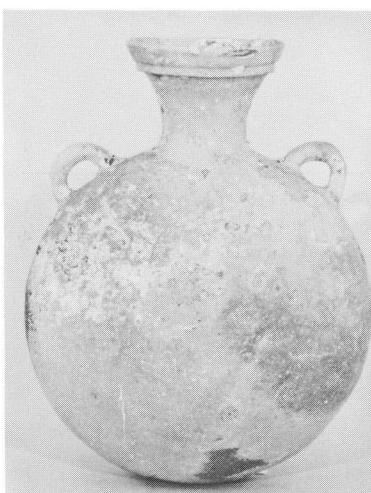
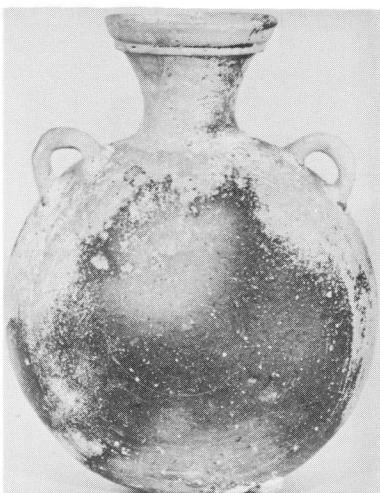
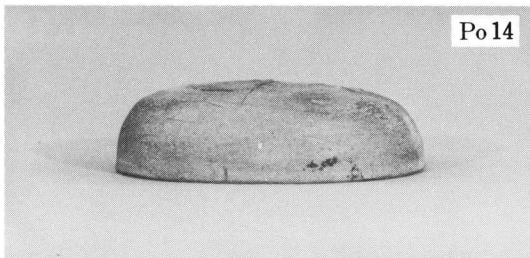


石棺（西より）



円護寺21号墳調査後 全景（北東より）

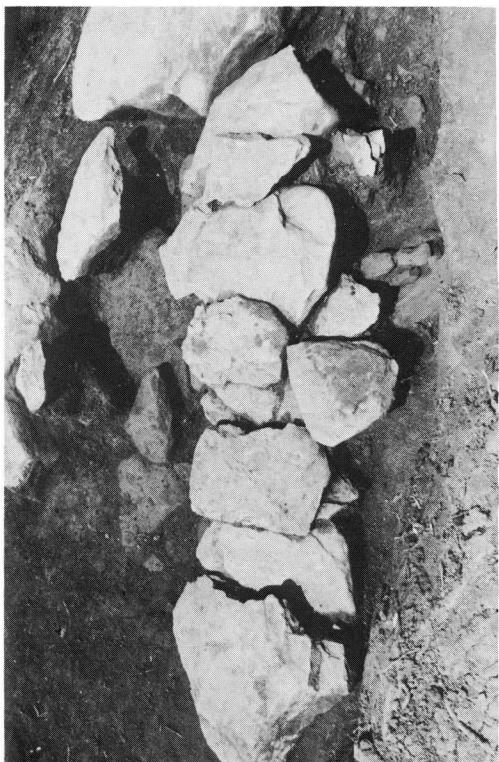




第1 埋葬施設石棺



第1 埋葬施設蓋石



円護寺22号墳調査後（北東より）

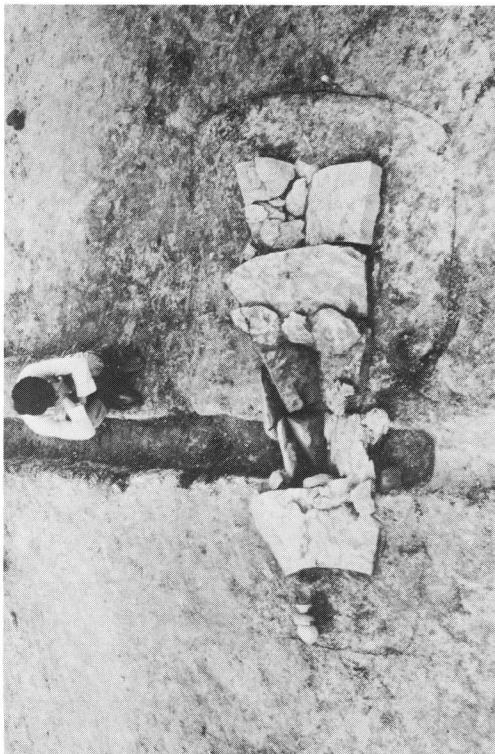


円護寺22号墳現況（北東より）

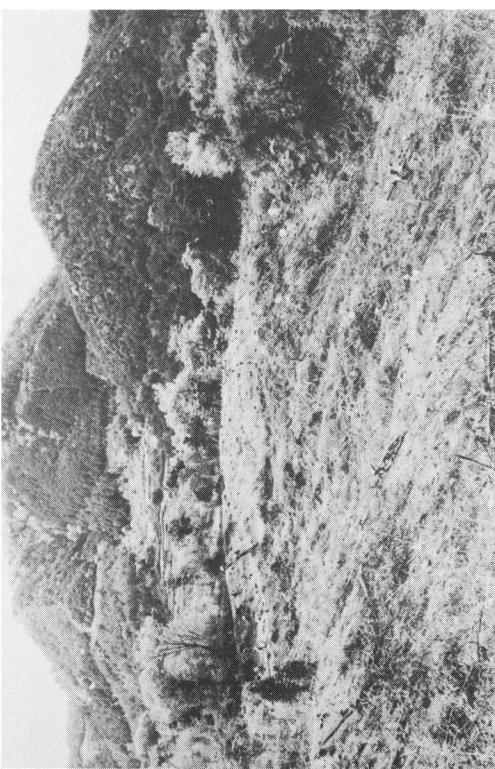




23・24・25号墳発掘風景（古屋敷より）



23号墳第1埋葬施設（南方より）



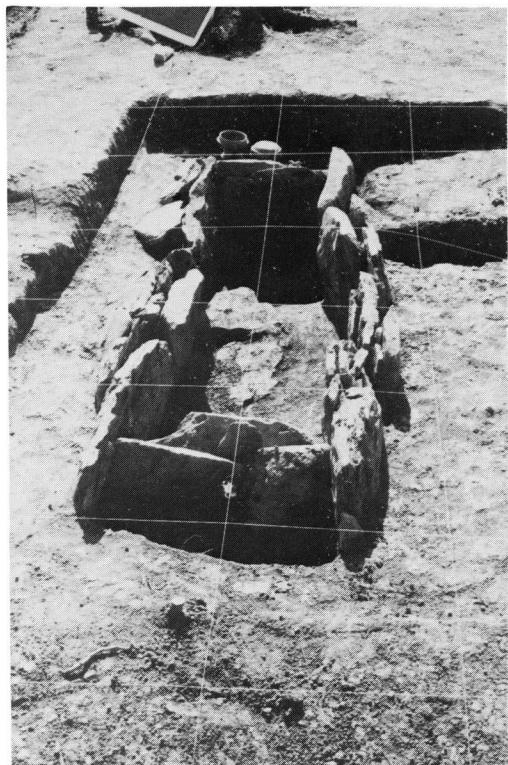
23・24・25号墳発掘前遠景（古屋敷より）



23・24・25号墳発掘後遠景（庵の城より）



23号墳第1埋葬施設蓋石（西方より）



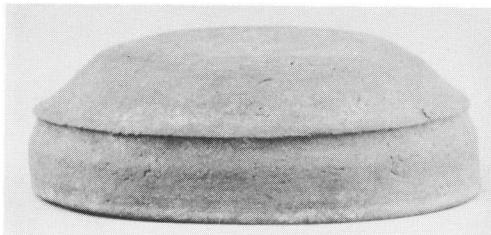
23号墳第1埋葬施設実測（東方より）



23号墳第1埋葬施設掘り方（西方より）



24号墳埋葬施設（南方より）



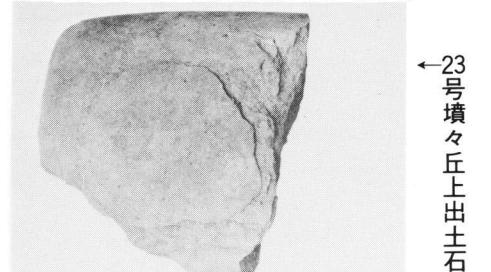
23号墳第1埋葬施設出土（杯蓋）



23号墳第1埋葬施設出土（坏身）



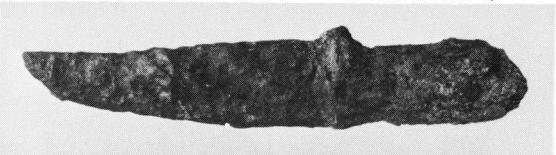
23号墳第1埋葬施設出土（高坏）



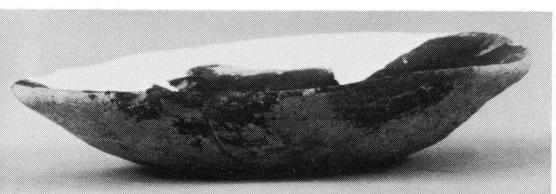
←23号墳々丘上出土石斧



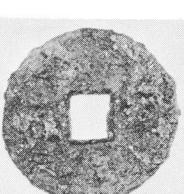
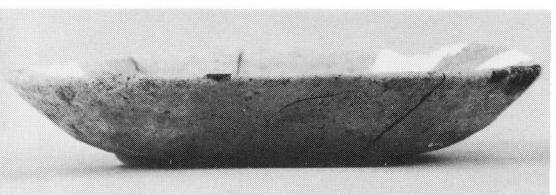
左写真のセット（内部より赤色顔料検出）



23号墳第1埋葬施設内出土の刀子

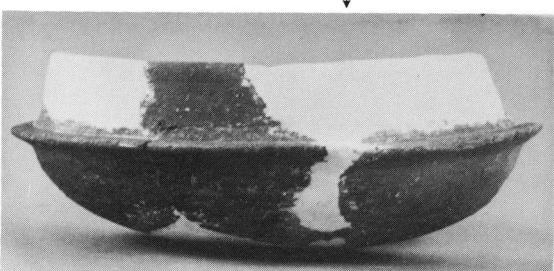


土師質皿（23号墳南方出土）



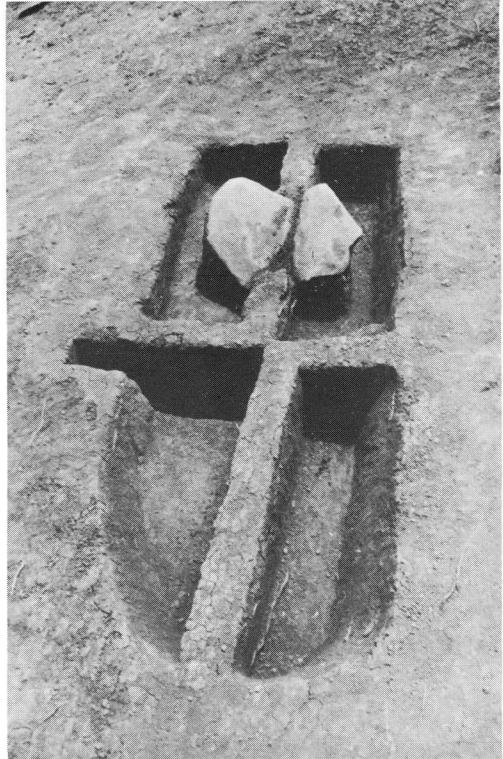
←23号墳々丘上表採銅錢

25号墳周溝内出土





23号墳第2埋葬施設（西方より）



23号墳第5埋葬施設（西方より）



23号墳第4埋葬施設蓋石（北方より）

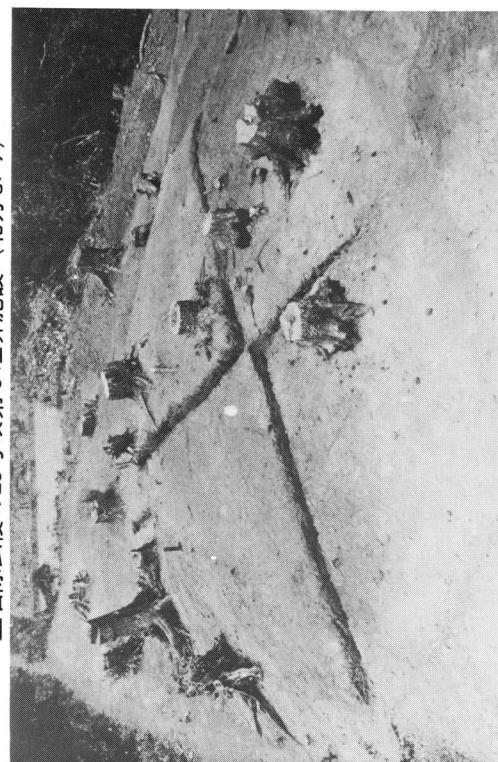


23号墳第4埋葬施設（北方より）

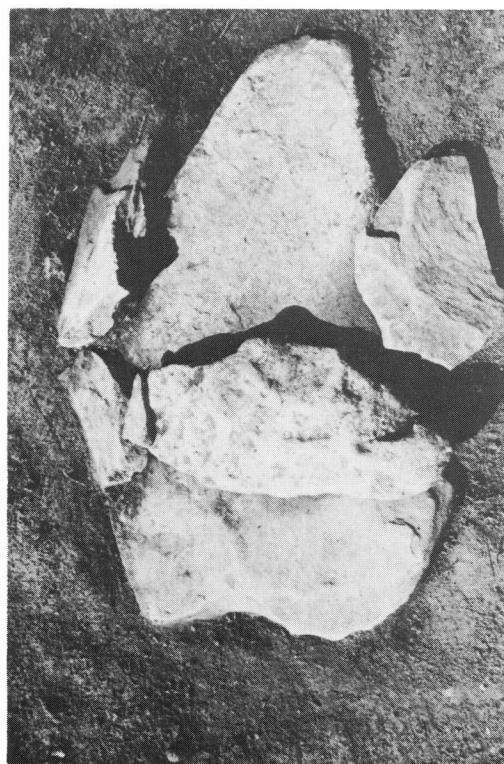
図版18
塙25・24・23号墳



蓋石除去後の23号墳第3埋葬施設（北方より）



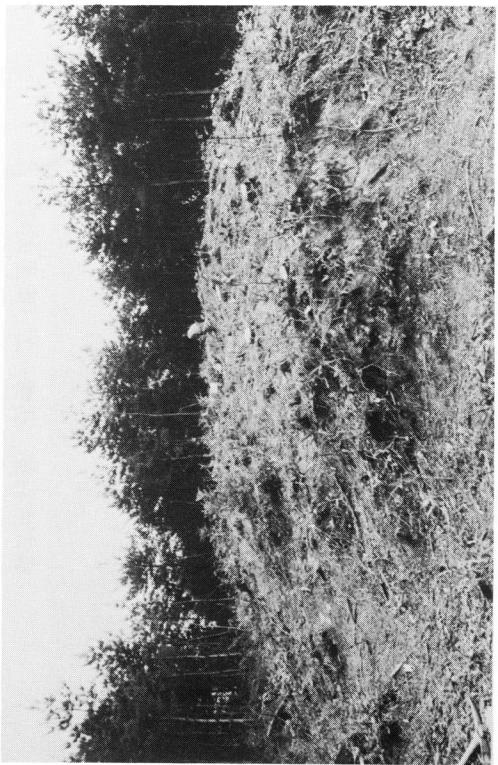
25号墳 全景（東方より）



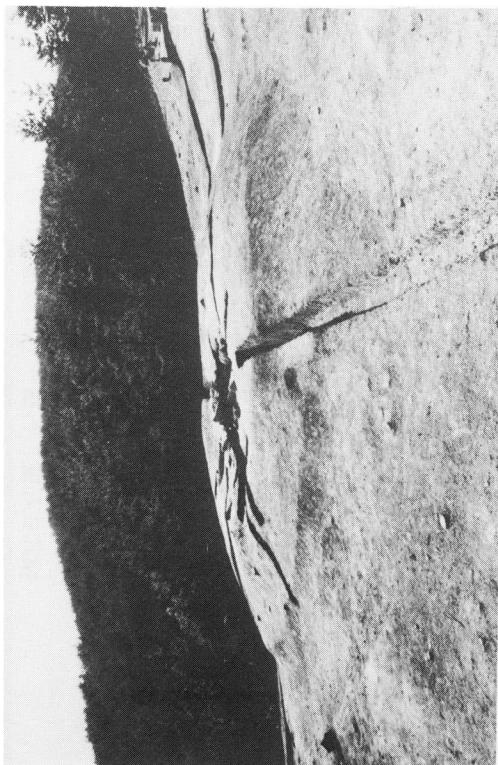
23号墳第3埋葬施設蓋石（北方より）



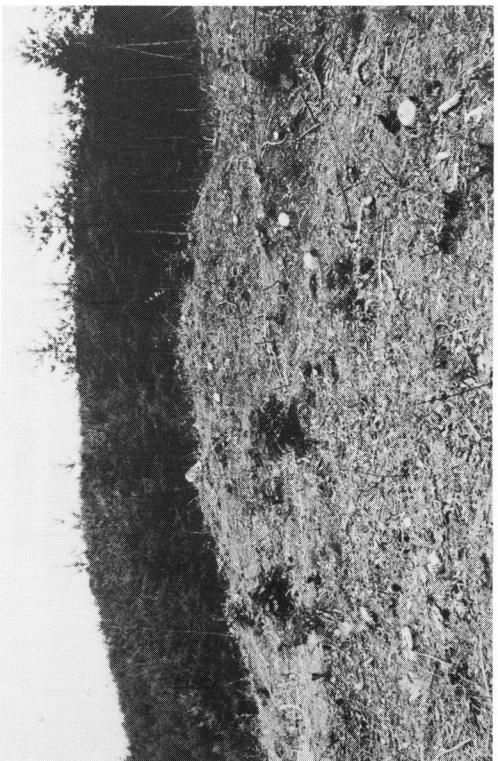
23号墳第3埋葬施設（北方より）



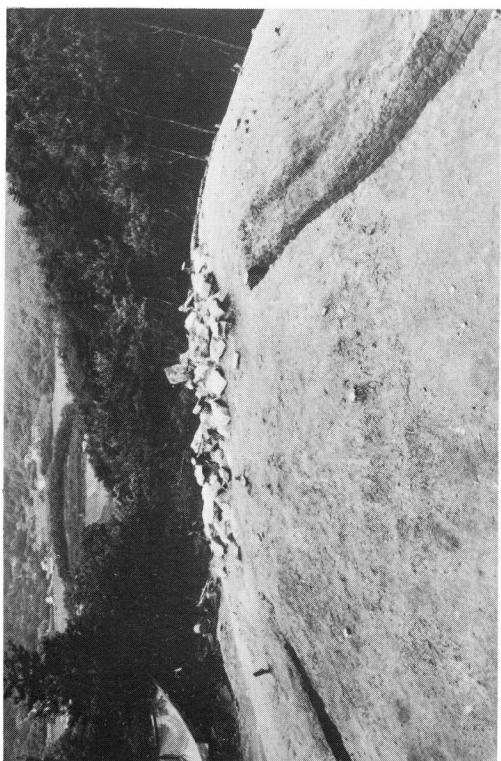
円護寺27号墳 現況（南側より）



円護寺27号墳調査終了後全景（東側より）



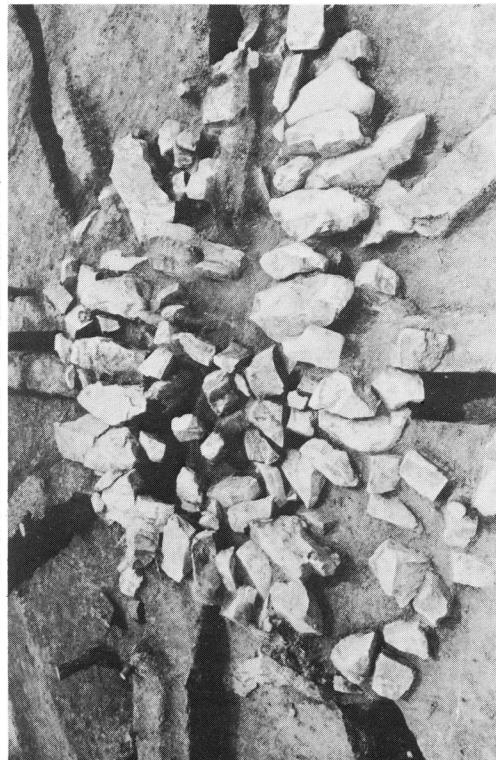
円護寺27号墳 現況（東側より）



円護寺27号墳 清掃後全景（北側より）



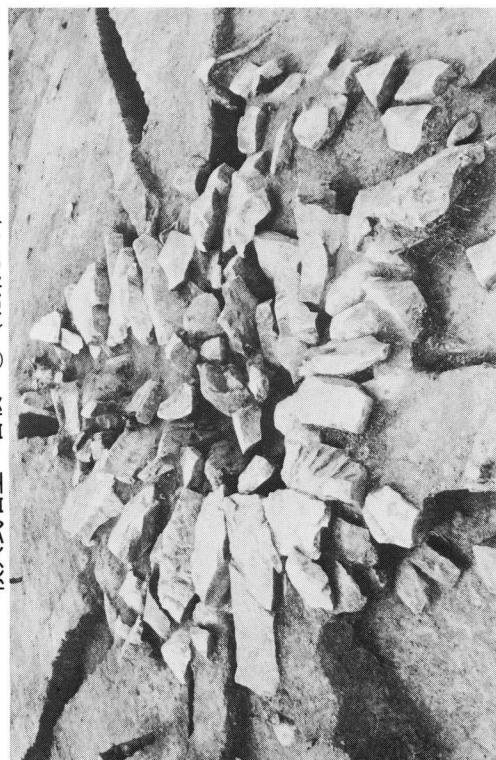
横穴式石室 石積-① (羨道側より)



横穴式石室 石積-② (南西より)



横穴式石室 石積-① (北東より)



横穴式石室 石積-② (北西より)



横穴式石室 石積-③(北西より)



横穴式石室 石積-④(北西より)



横穴式石室 石積-③(南西より)



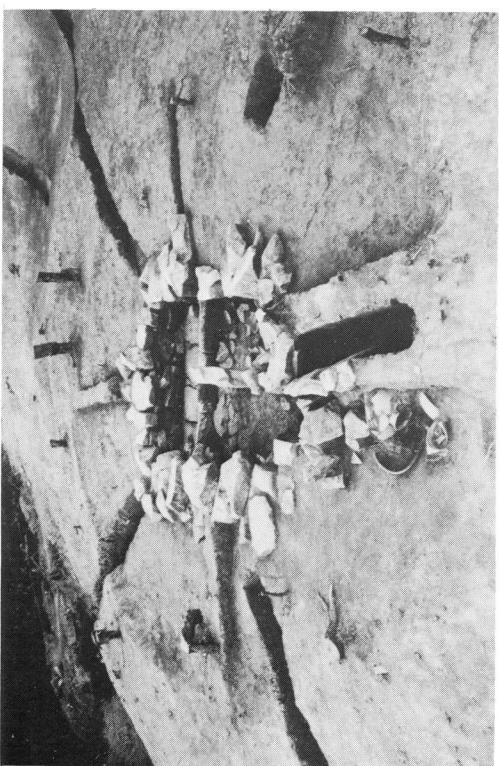
横穴式石室 石積-④(北東より)



横穴式石室 玄室 (遺物取上後)



横穴式石室 玄室内 遺物出土状況 (北東より)

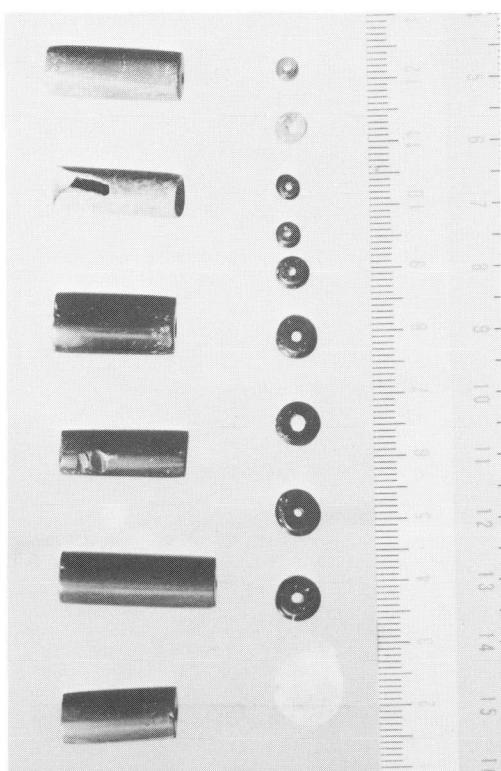


横穴式石室 全景 (羨道側 = 北東より)

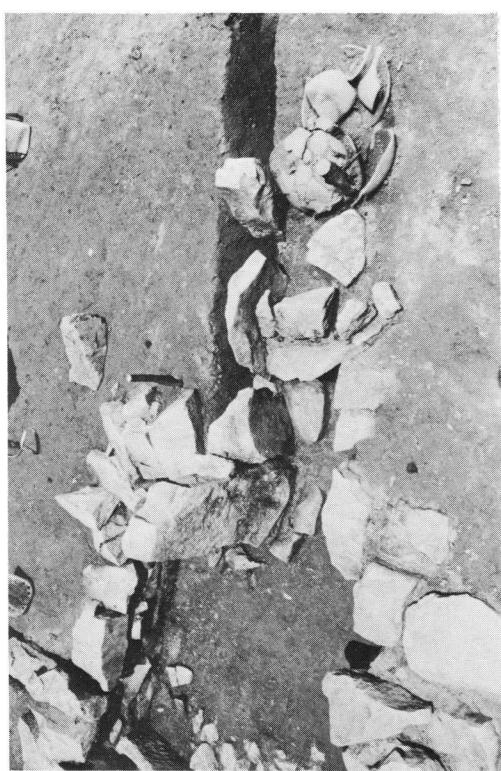


横穴式石室 玄室内 遺物出土状況 (南西より)

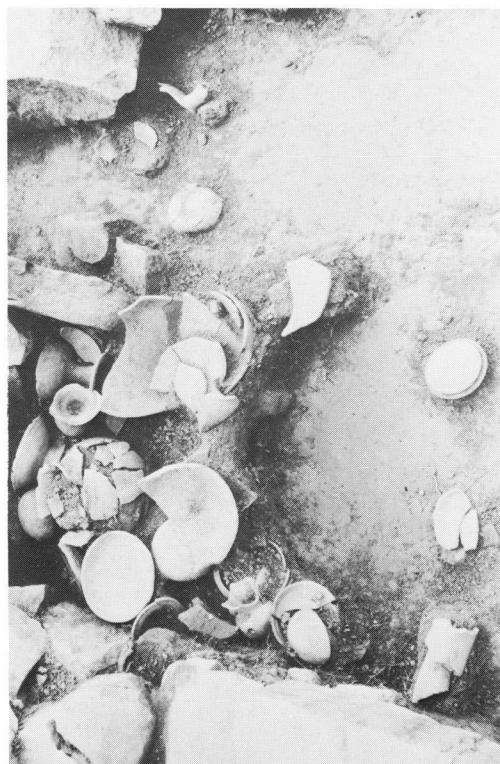
玄室內出土玉製品 (J1 ~ 16)

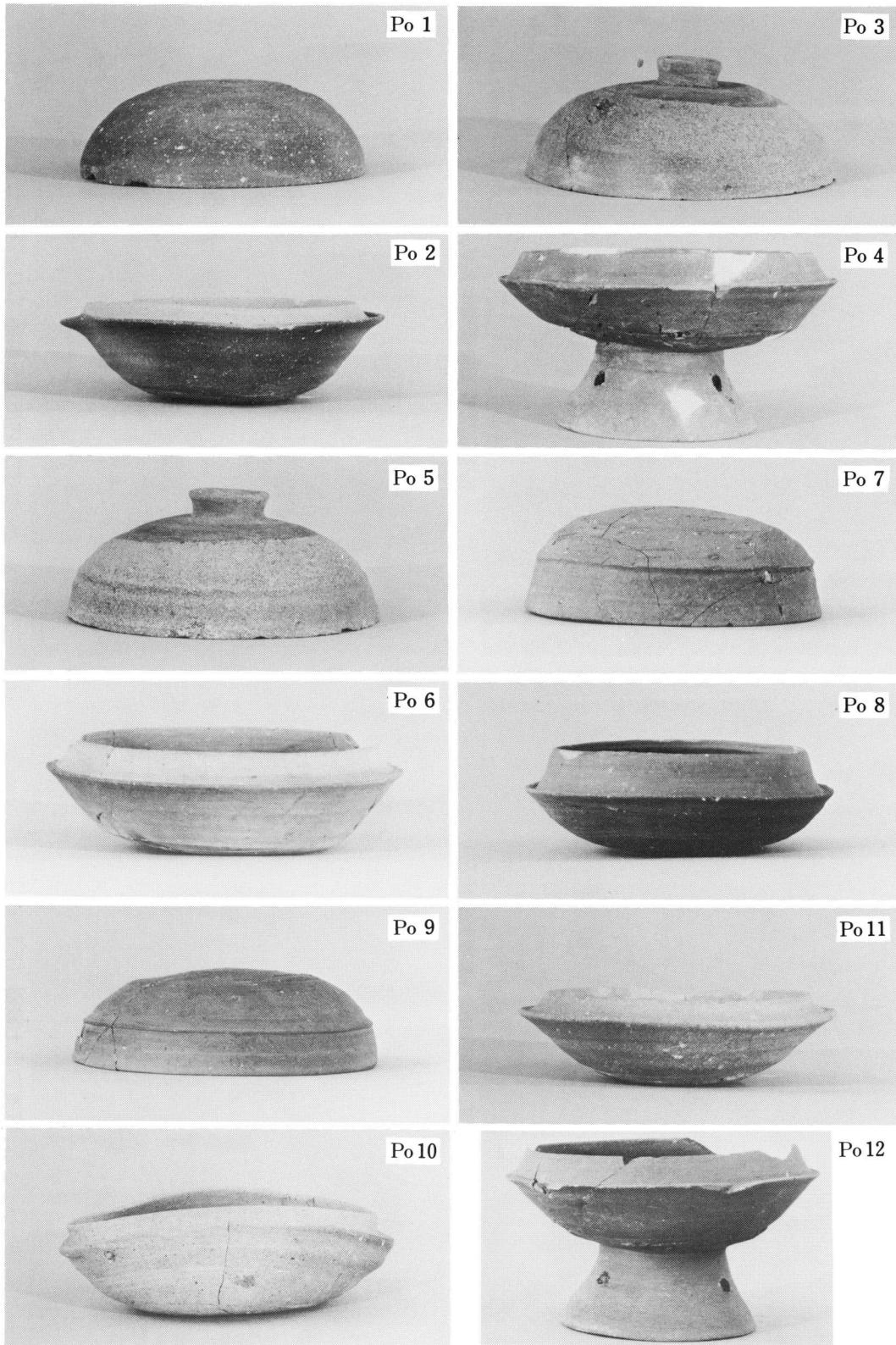


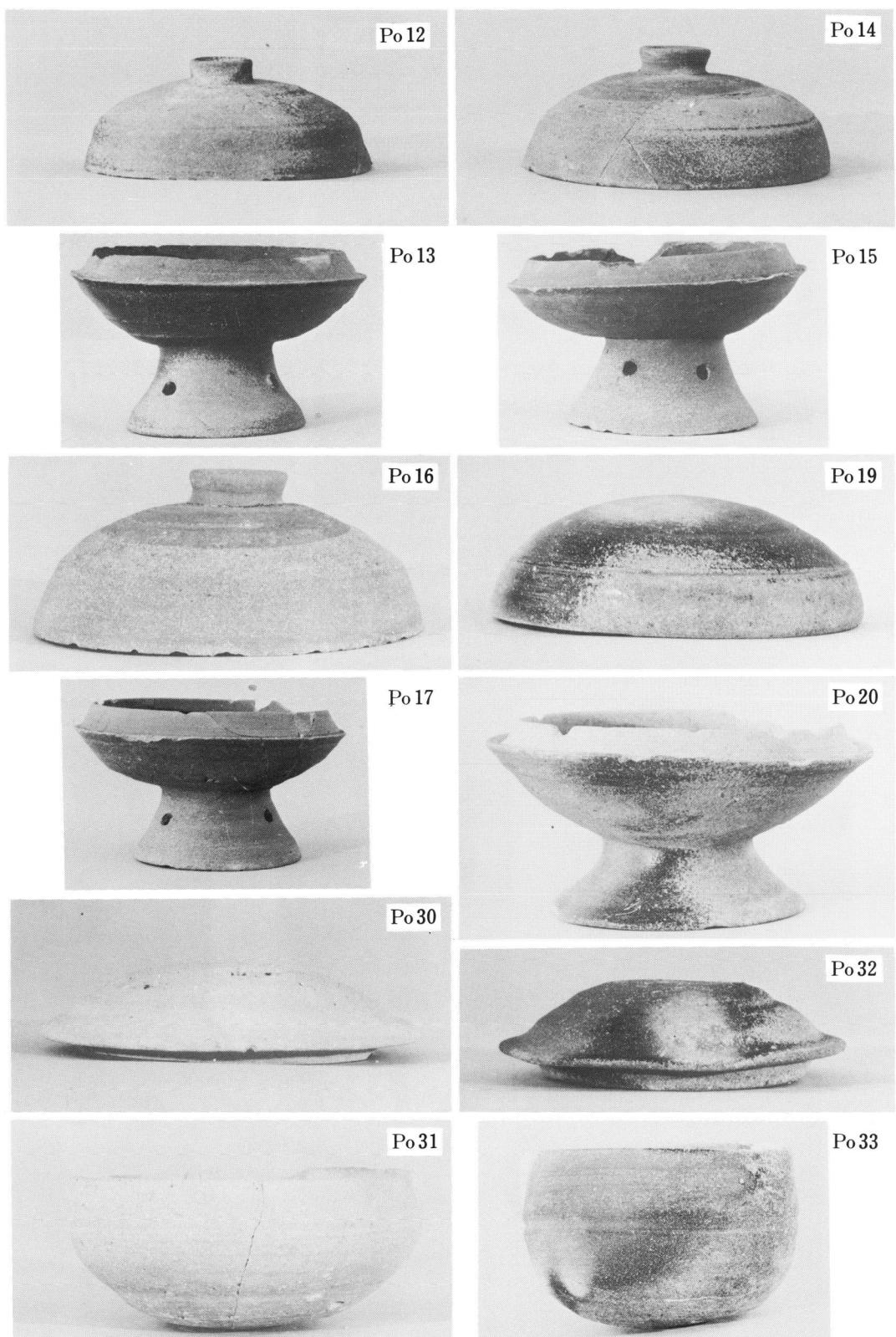
羨道及羨道遺物出土狀況

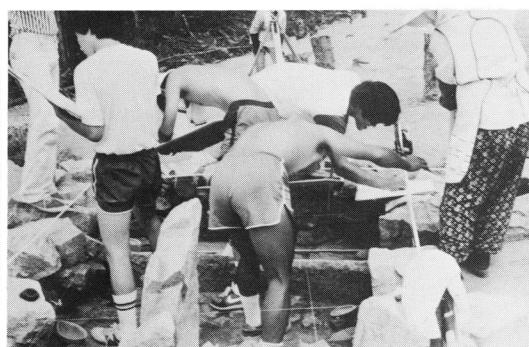
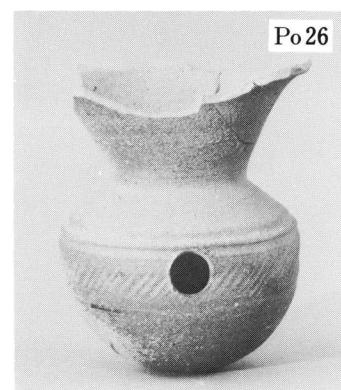
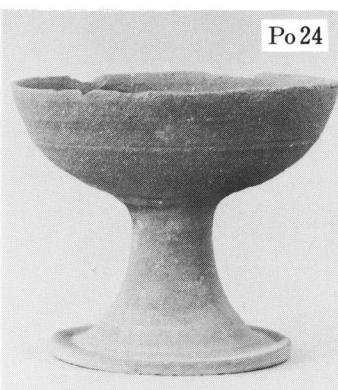
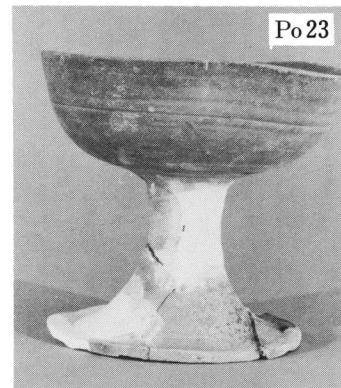


橫穴式石室 玄室東隅 遺物出土狀況

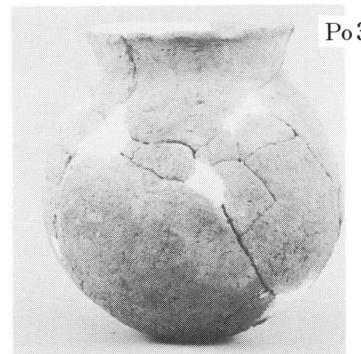
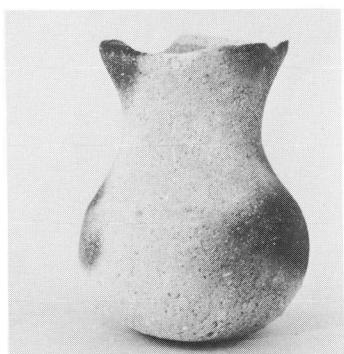
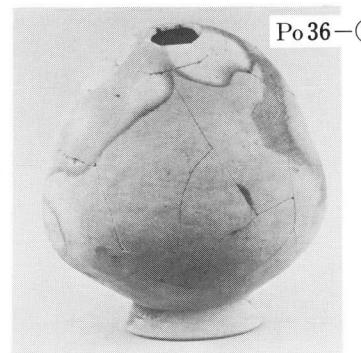
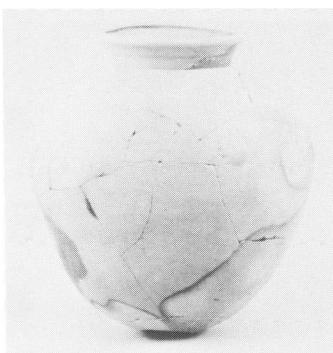
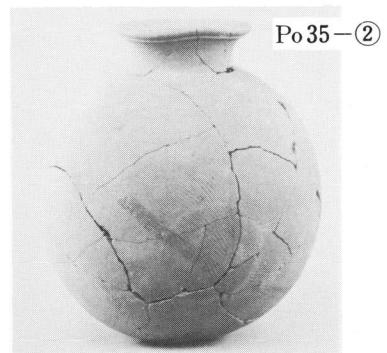
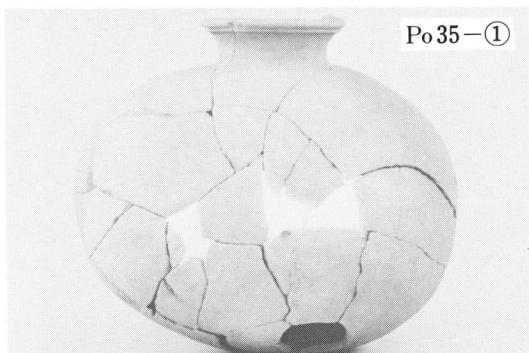
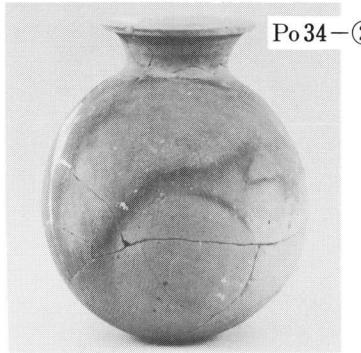
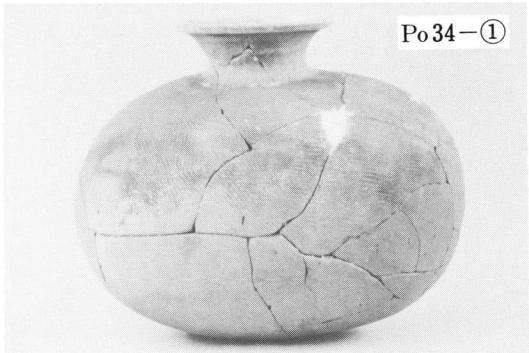


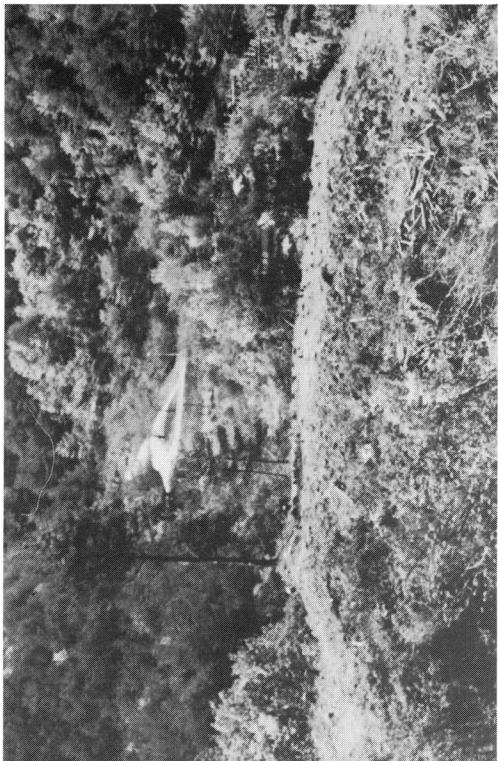




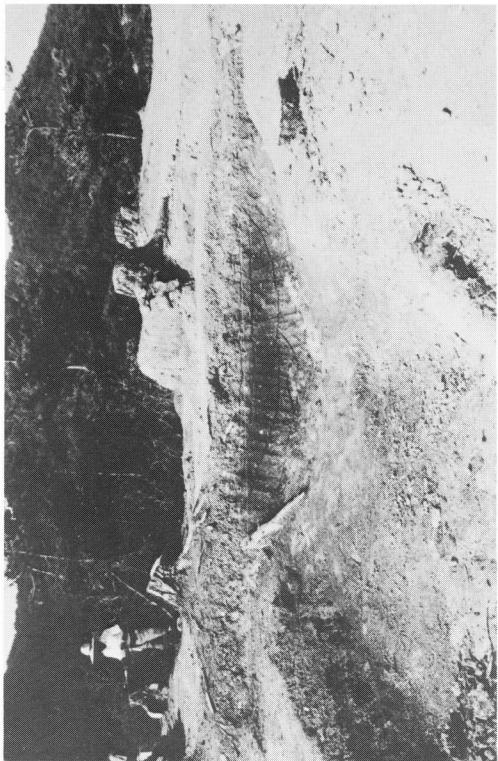


円護寺27号墳（作業風景）

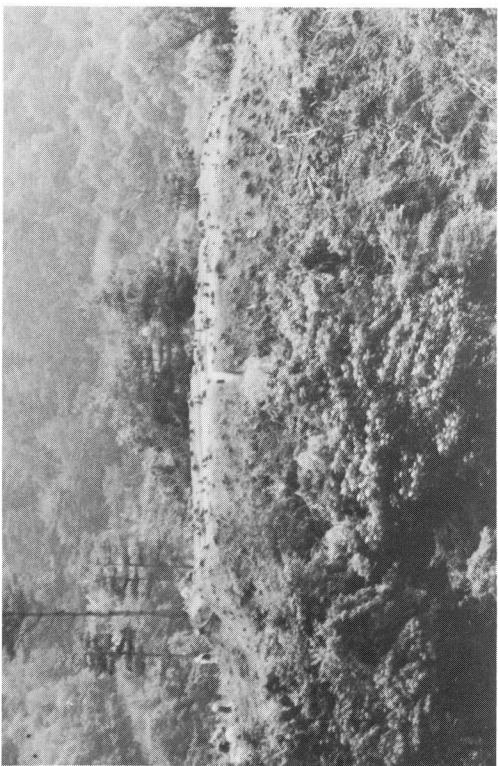




発掘前の28号墳遠景（東方・古屋敷より）



28号墳Nトレーンチ周溝断面（西方より）



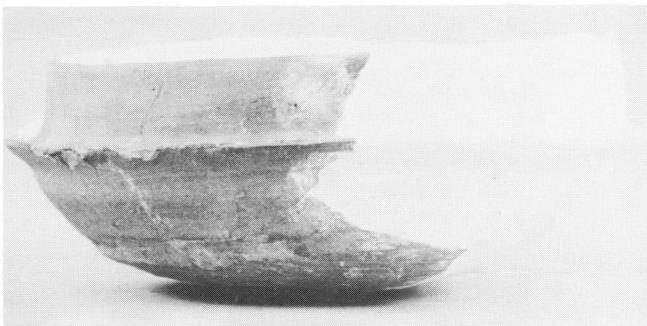
発掘後の28号墳遠景（東方・古屋敷より）



28号墳全景（北方より）



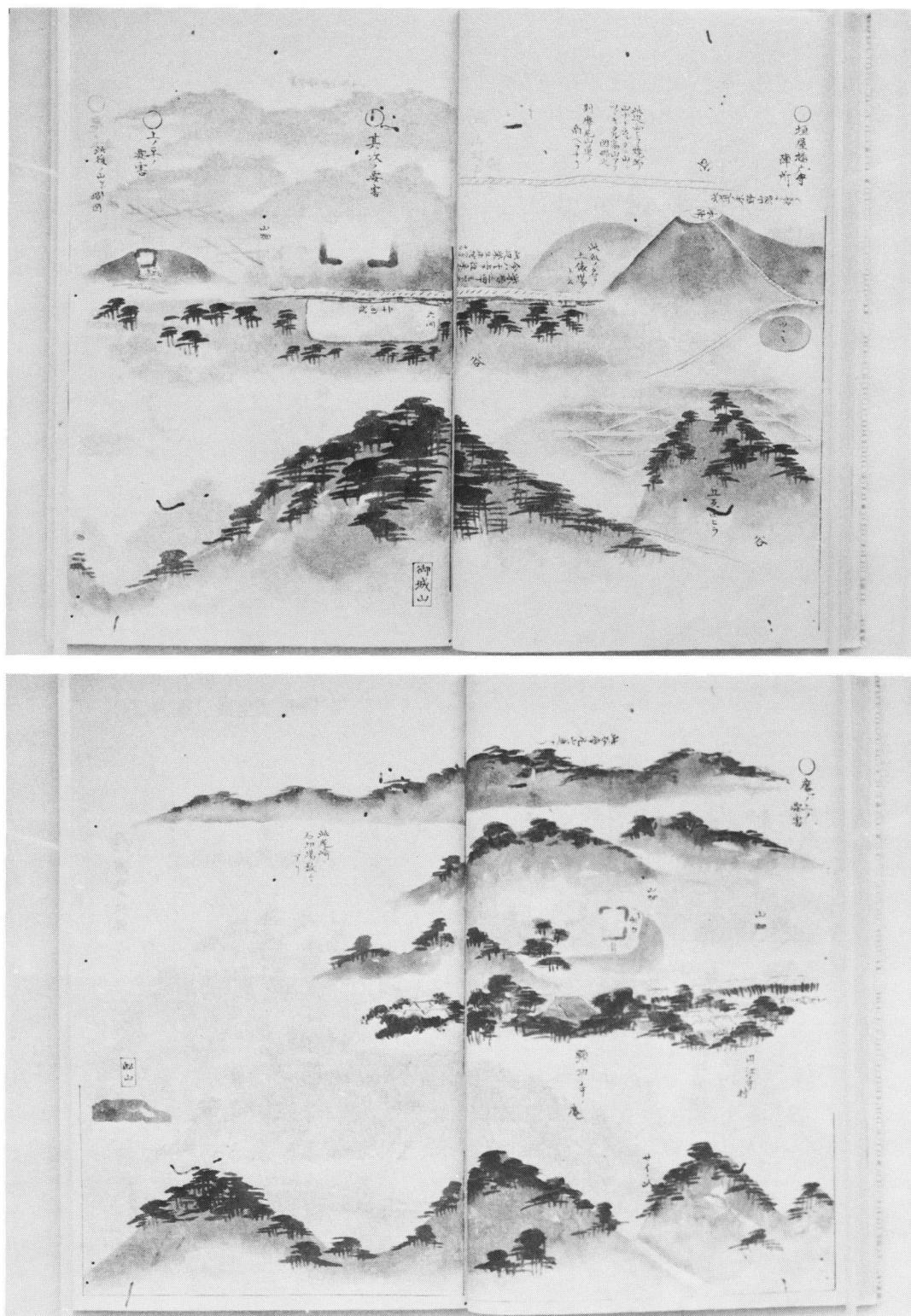
↑
29号墳全景（東方より）



←29号墳周溝内出土

円護寺横穴

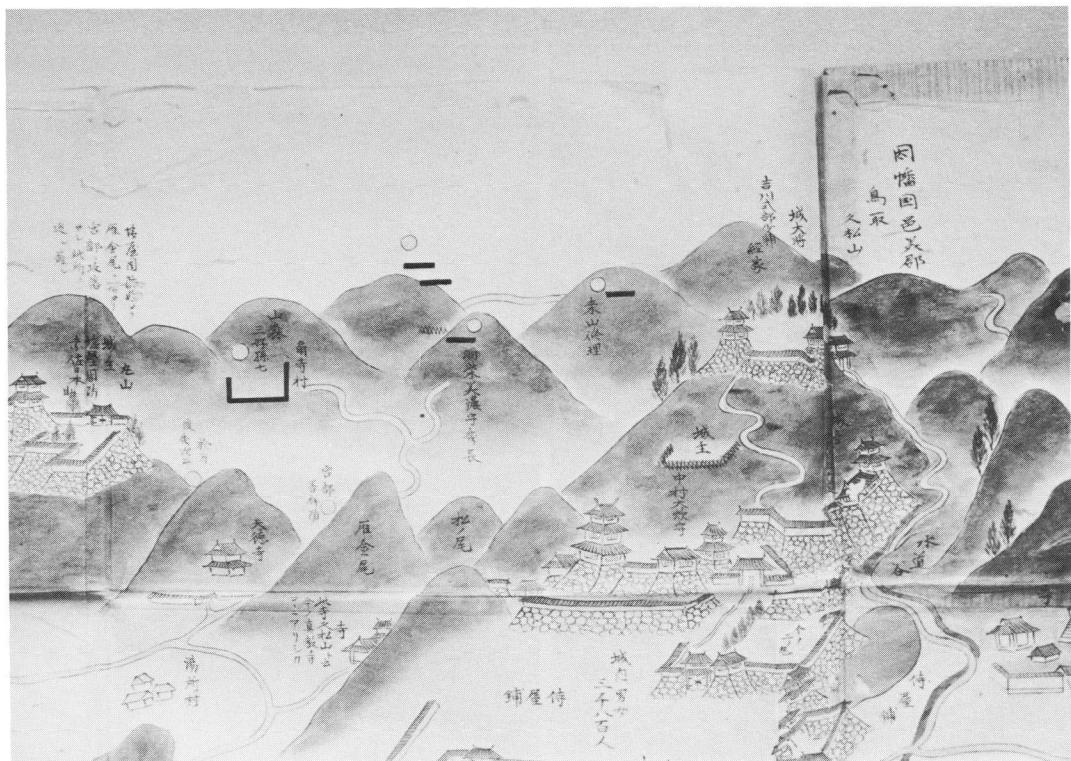




『旧墨さく覧』絵図（上段左から下段右に続く）



『旧墨さく覧』絵図（一部）



『旧墨さく覧』絵図（一部）



庵ノ城砦跡 全景（東より）



郭（東より）



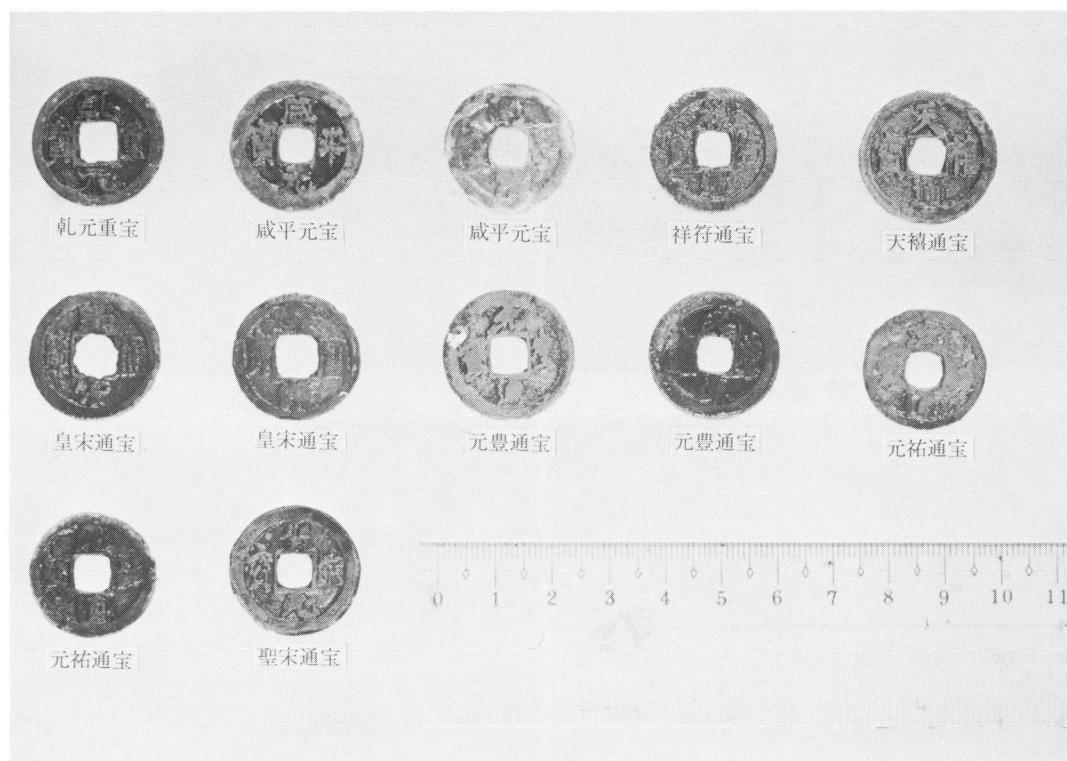
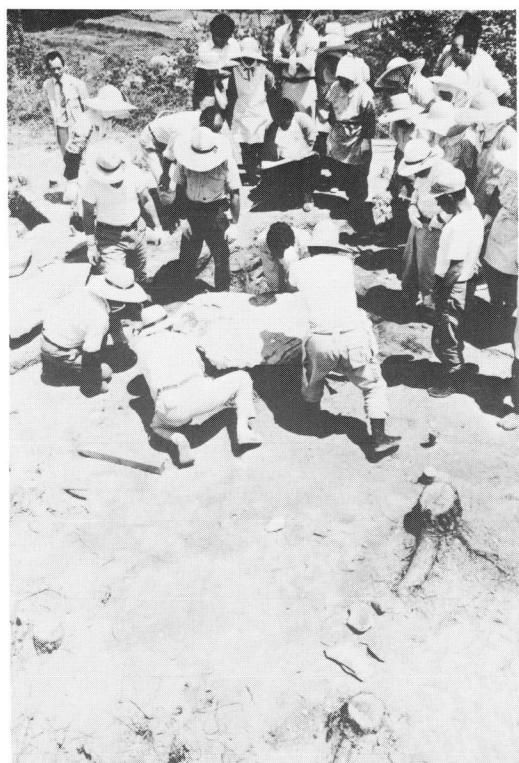
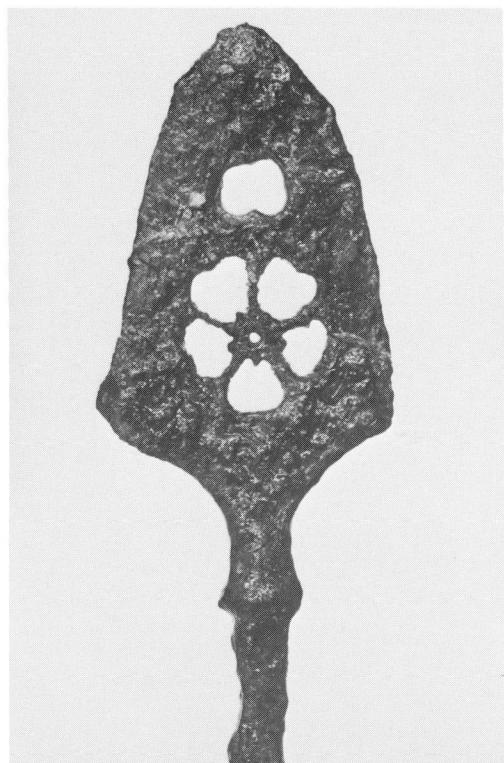
虎口付近土塁



虎 口

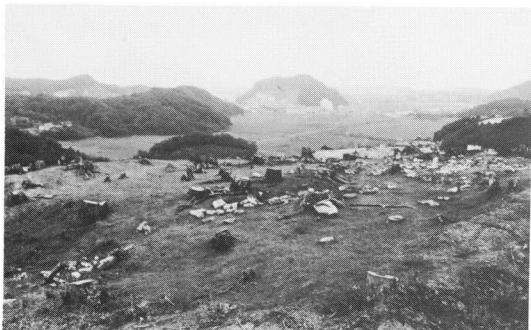


東側土塁





古屋敷砦跡全景（西より）



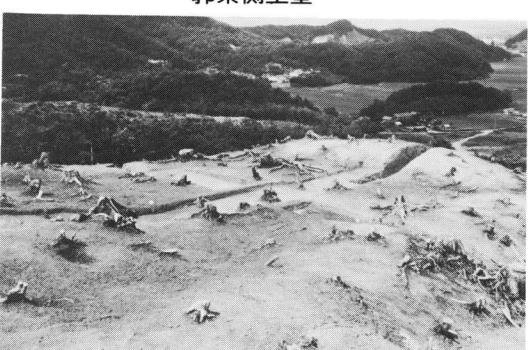
郭南側



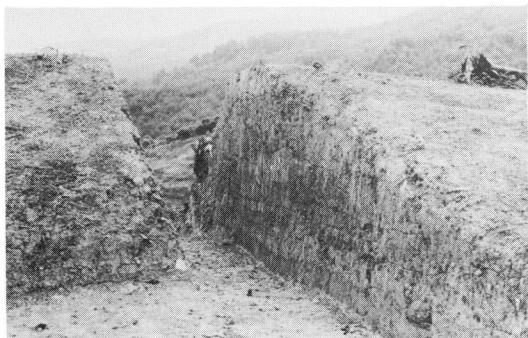
郭東側土塁



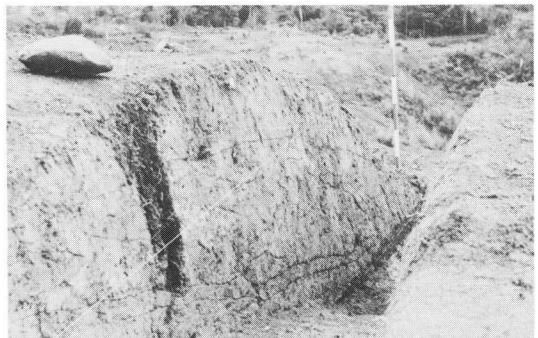
郭北側



郭北側



古屋敷Nトレンチ断面



古屋敷Wトレンチ断面



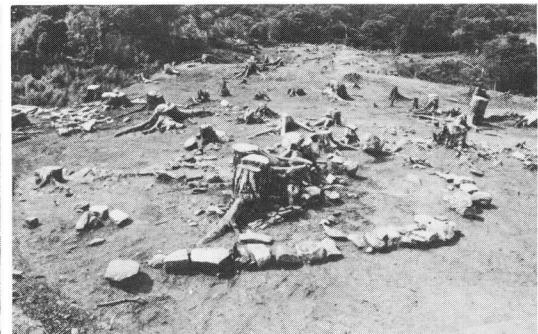
妙見と土塁の位置



妙見調査前集石



妙見堂跡（北より）



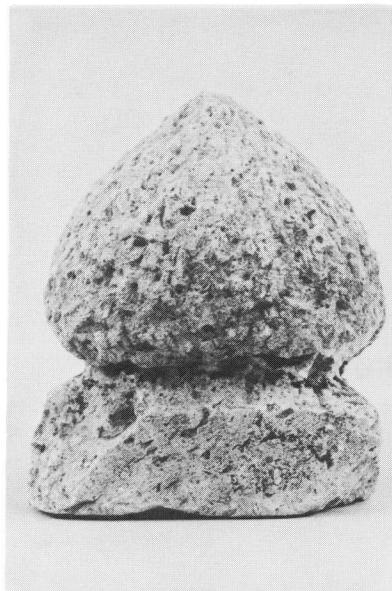
妙見堂跡（東より）



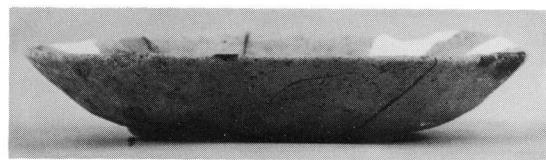
古屋敷参道（南より）



古屋敷参道（西より）



石燈籠



土師質灯明皿



古屋敷出土遺物



陶器灯明皿



中尾土塁を南方より望む



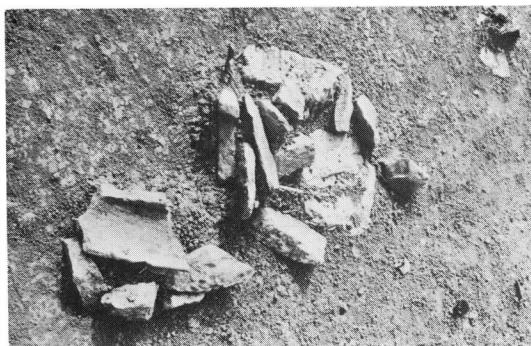
古屋敷第1テラス調査前風景（西より）



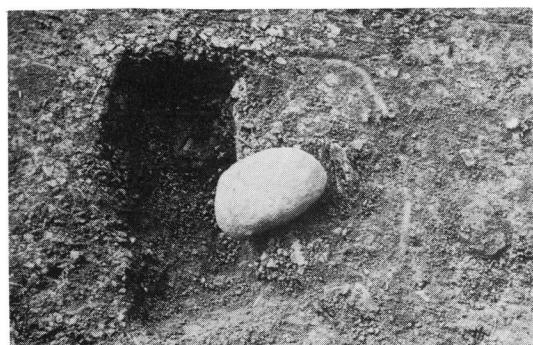
同調査後（西より）



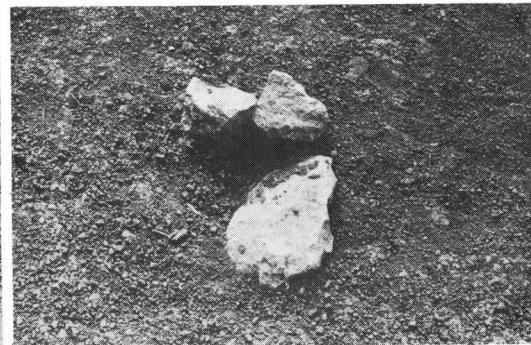
同調査後（南より）



礎石 1



礎石 2



礎石 3



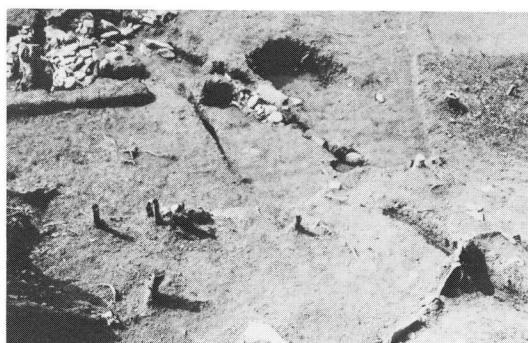
井戸調査前



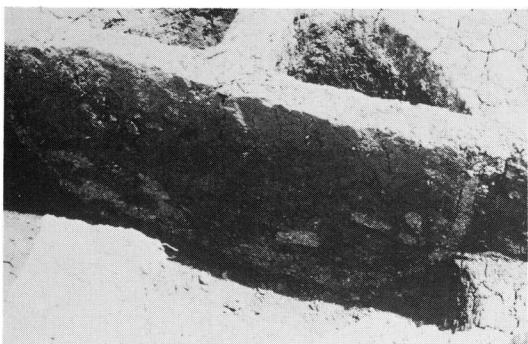
井戸調査後



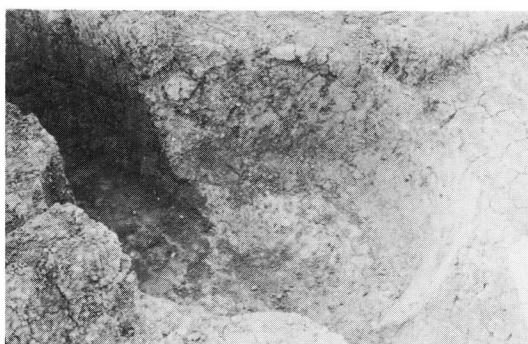
集石遺構



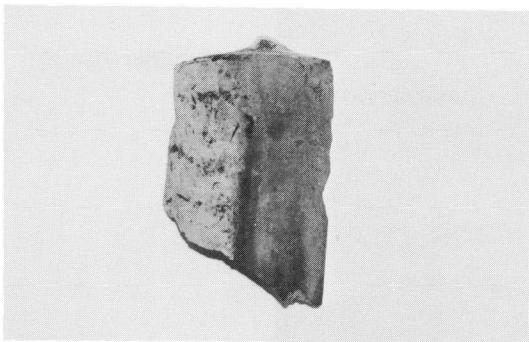
石列およびその周辺



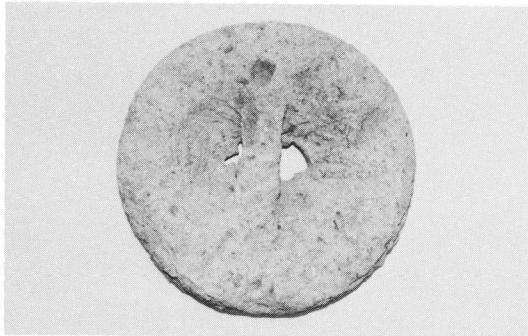
土塙断面



土塙調査後



古屋敷第1テラス出土瓦



井戸出土石製品



土塹出土素焼き皿



調査風景



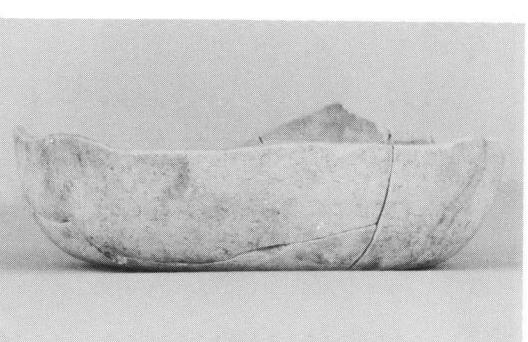
古屋敷第5テラストレンチ全景



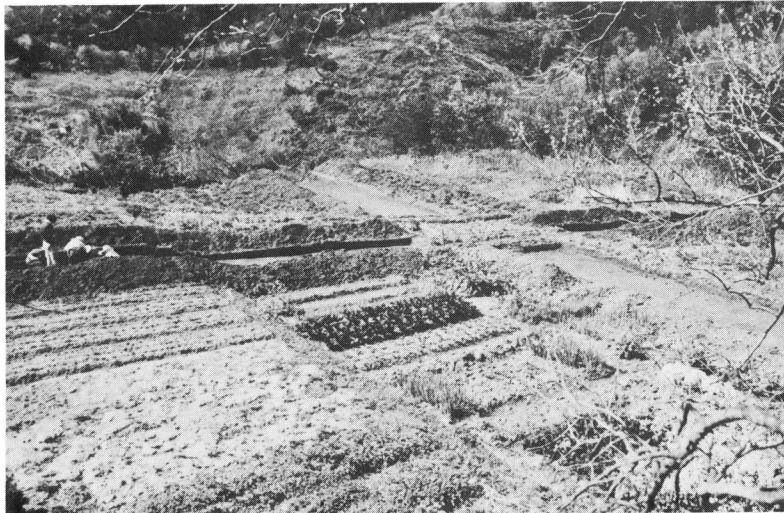
同 石列



同 遺物出土状況



同 出土遺物



円護寺遺跡(散布地)
全景



古寺地区全景



字おなば出土
須恵器
(城北小学校蔵)

円護寺遺跡群

中ノ郷団地(円護寺地区)開発に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

発行日 1983年3月25日

編集 財團法人鳥取県教育文化財団
〒680 鳥取市扇町21番地

発行 鳥取県住宅供給公社
〒680 鳥取市東町1丁目271番地

印刷 中央印刷株式会社
〒680 鳥取市南栄町34番地